

【第14回年次大会 基調講演 要旨】

ジェンダーの文法；文法のジェンダー  
The Grammar of Gender; the Gender of Grammar

ポール・スノードン

日本語、英語、その他のヨーロッパ言語の例を挙げながら「ジェンダー」という概念を文法、生物、差別それぞれの面から考察した。問題点や矛盾に注意を向けながら、以下の6点を中心にパワーポイントで要点を述べた。用語は主に日本語になったが、英語やほかの言語の例も多数、示すこととした。

- ① ラテン語および現代のヨーロッパの言語での「ジェンダー」
  - a. その必要性 (意味の違い、等)
  - b. その表示方法 (語尾、冠詞や形容詞の形、等)
  - c. その(生物的性別と関係ない)ランダム性 (言語によつての違い、セットの中の不統一、等)
  
- ② Marked forms 有標形 / (英語の -ess、等) /  
Unmarked forms 無標形 (英語の -er、等) /  
Generic forms (英語の person、等)
  
- ③ Social Expectations and Adaptations 社会的理想、対応  
Doctor, Nurse, Bicycle, Fish  
(Doctor と Nurse の絵を描くとき、どちらの性にするか)  
(自転車のデザインにおける生物的違いと社会による期待の違い)  
“A woman needs a man like a fish needs a bicycle.” Irina Dunn, 1970  
London SE1 9DT (WWI, 女性の“郵便屋”のための郵便番号)
  
- ④ From *hlaefdige* / *hlafweard* to *lollipop lady*, *lady friend*, *lady of the night*: asymmetry 不均等; semantic derogation 意味上の軽蔑
  
- ⑤ Political Correctness 政治的公正 vs. Social Practice 社会的実際
  
- ⑥ Dear \_\_\_\_\_ ? 拝啓?、愛していますか? どの様な相手を期待していますか?  
(Sir で十分なのか、むしろ Sir or Madam がいいのか)  
Name, DoB, \_\_\_\_\_ ? 今日はどんな気分ですか? (性別: Sex か Gender か)

(Paul Snowden · 杏林大学 副学長)

[目次に戻る](#)